

「新エネ大賞」応募申請書【機器の部】(記入例：廃棄物発電)

申請者(企業名等)	
機器の名称	「方式灰溶融システム」

項目	概要	備考
機器事例の特徴 (PRポイント)	<p>世界で初めての方式による灰溶融システムを開発・実用化した。本システムはマテリアルリサイクルが困難な廃プラスチックを細片ごみ状態(フラフ)とし、灰溶融の燃料として使用する。</p> <p>従来、灰溶融炉では、灯油等を燃料に使用していたが、本システムでは廃プラスチックを燃料として使用することにより、従来の灯油等による灰溶融に比べ経済性を向上させるとともに、廃プラスチックのサーマルリサイクルを行ない、灯油等の化石燃料使用量を削減することをねらいとしたものである。</p> <p>フラフ製造・供給設備、灰溶融炉、排ガス処理設備などから構成され、灰溶融システムとして製品化した。</p>	別添： 機器概要参照
機器の先進性/独創性	<p><u>方式の概要</u></p> <ul style="list-style-type: none"> リサイクル困難な廃プラスチックを燃料として有効活用できる灰溶融システムである。 <p><u>従来方式からの改善点</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 等の改善をおこない、これまで実現が難しかったフラフの高温安定燃焼を確保した。 	別添： 方式説明 資料参照
市場性	<p><u>販売実績</u></p> <p>平成 年： 台納入</p> <p><u>将来予測</u></p> <p>本方式の特長を生かし、分野への参入をねらいとして、導入促進が期待できる。 (目標：平成 年までに、 台納入)</p>	
経済性	<p><u>本体価格</u></p> <p>現状、従来型と比較して、本体価格は割高(約 %程度)となっている。今後、導入拡大を進めることで従来型と同じレベルとなる見込みである。</p> <p><u>長期観点からの経済性</u></p> <p>初期価格が割高であるが、燃料として使用する廃プラスチックの価格が安く、保守費用も従来型と大差ないため、長期的に見ると従来型に比べ経済性がある。</p> <p>本方式：約 、 円/t 従来方式：約 、 円/t</p>	
運転実績	<p><u>運転実績</u></p> <p>運転実績はまだ少ないが、工場での運転実績は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 設備利用率：約 % 処理量：約 t/h <p><u>主な不具合発生状況と対策</u></p> <p>当初、初期故障などで稼働率が低下していたが、最近の稼働率は、約 %を達成しており、特に故障は発生していない。</p>	別添： 運転実績参照
その他	<p>方式の灰溶融システムに関する特許 件出願中である。</p>	